

クロージング

司会：リカバリー全国フォーラム企画委員
樋口輝彦（日本うつ病センター）
大島巖（地域精神保健福祉機構 コンボ）
宇田川健（地域精神保健福祉機構 コンボ）

クロージングはリカバリー全国フォーラムの大事なプログラムの一つです。毎年、最後のクロージングで大いに盛り上がります。

49グループに分かれての振り返り

まず、参加者の皆さんが、近くに座っている参加者の方々が声を掛け合って5～8名の小グループを作り、自己紹介しあいました。

今回は、49グループができ、今回のリカバリー全国フォーラムで一番印象に残ったことをおよそ15分間話し合いました。話し合いのあとで、いくつかのグループから、どんな話をしたのか、報告していただきました。

●A グループからの報告

- リカバリーカレッジの運営はすごいと感じた。自分たちの地元には、まだないが、仲間に報告したい。
- 分科会は、参加してみたいと思うものが多すぎて、困りました。
- トークライブで、当事者のパワーに圧倒された。当事者だけでなく、支援者も発表してもらいたいと思った。
- 関西でもリカバリーフォーラムを開催してほしい。

●B グループからの報告

- 仲間のつながりの大切さを強く感じたフォーラムだった。
- このフォーラムでは、「居場所、役割」などが大切なキーワードだったと感じている。
- 専門家と当事者の垣根を取り払った分科会をつくってほしい。
- 初めて参加したが、最先端の支援を学ぶ機会になった。

●C グループからの報告

- 希望についての話がもりあがった。
- 偏見についてもっと学んでもらいたいので、メディアの人に参加してもらって学んでもらいたい。
- リカバリーカレッジのことをもっと知りたいので、体験コーナーをつくってほしい。

●D グループからの報告

- 当事者と専門家の境目のない、バリアフリーの世の中にしてもらいたい。
- ピアサポーターを導入したことによる効果や反応をもっと知りたい。
- 当事者（ピア）ならではの強みとは、「自分が苦しんでいるからこそ、相手の苦しみがわかる」ということ。

樋口輝彦先生 企画委員長就任にあたって

長年にわたり、リカバリーフォーラムの企画委員会の委員長を務められた高橋清久先生が昨年をもって委員長を退任されました。

今年からは、樋口輝彦先生が委員長を務めることとなりましたので、そのあいさつをされました。

樋口輝彦先生のあいさつ

——これほどピアのことが語られていることに感銘を受けました。しかし、それはとりもなおさず、この会場内と会場の外に温度差があることを意味しています。

病院内ではまだまだピアサポートとは何かを知らない人が多い。その温度差を埋めることが、これからの課題であり、私の命ある限り、続けていきたいと思えます。

最後に、会場全体で、「オー！」というかけ声で集合写真を撮影して、クロージングセッションを終了しました。

《丹羽大輔（認定NPO法人地域精神保健福祉機構・コンボ）》